

日付は申請受付日ですので、事前相談の段階では空欄としてください。

一般社団法人 20年先を見据えた日本の高断熱住宅研究会
理事長 坂本 雄三 殿

HEAT20 住宅水準 「住宅システム認証」 申請書

申請者 会社名 株式会社 ○○工務店
代表者役職、氏名 代表取締役 ○○ ○○
住所 東京都千代田区神田○-○

HEAT20	会員区分	<input checked="" type="checkbox"/> 会員	<input type="checkbox"/> 非会員
会員情報	会員種別:	B-3	会員名: 株式会社○○工務店

標記の認証を受けたいので、関係書類を添えて申請いたします。
この申請書及び付属資料の記載事項は、事実と相違ありません。

記

該当箇所の□にチェックマーク☑を入れて下さい。

システムの全体像を示すための矩計図、断熱部位の断面構成がわかる図面（平断面、縦断面）を必ず添付してください。
暖冷房・換気システム等については、補足資料として適宜添付してください。

「計算地点選定リスト」による検討結果を添付してください。

ルート1は、「外皮性能地域補正ツール」の計算結果を転記してください。
ルート2は、ホームズ君 省エネ診断エキスパートの「HEAT20 住宅シナリオ計算書」の計算結果を転記してください。
※AE-Sim/Heat による場合は、事務局までお問い合わせください。

外壁・屋根・天井・床の熱貫流率計算において木部等の熱橋面積比率が軸組工法、枠組壁工法と同等か、あるいは相違があるかの確認のために記載ください。

気象データのない市町村を申請地域とする際には、資料「申請地域と評価に用いる気象データ地点の選び方」に基づいて検討してください。
注：気象データ地点を申請する地域としたり、対象外とすることはできません。（都道府県、市区町村単位もしくは省エネ基準の地域区分単位で記載してください。）

HEAT20設計ガイドブック2021のp026 表1を参照して記入してください。

HEAT20設計ガイドブック2021のp030 表2を参照して記入してください。
注：「ルート1」と「ルート2」では、負荷削減率の意味が異なります。

1 住宅システムの名称	○○工務店 プレミアム断熱住宅システム						
2 住宅システムの概要と特徴	1)外皮の熱性能 G3水準の高断熱住宅である。断熱材は・・・が主材料なので、気密性・防湿性にも優れている。窓は3層ガラス・・・サッシを使用する。日射遮蔽は庇とルーバーで行う。通風にも配慮して、開口部と廊下の位置を定めている。 2)暖冷房・換気設備の特徴 暖冷房は家庭用エアコンを熱源とする全館空調システム(・・・システム)である。全熱交換換気と空気清浄機もシステムに内包されているので、省エネで且つ健康的である。						
3 構造の種類	<input type="checkbox"/> 木造軸組工法 <input type="checkbox"/> 枠組壁工法 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (○○断熱パネル工法 ←)						
4 認証を申請する地域 <small>(省エネ基準の地域区分、県名、市区町村名を適宜使用して、もれがないように申請する)</small>	東京都、神奈川県川崎市、神奈川県横浜市の6・7・8地域						
5 認証を申請する水準 (住宅シナリオ)	<input type="checkbox"/> G1 <input type="checkbox"/> G2 <input checked="" type="checkbox"/> G3						
6 評価計算の方法と指標の計算結果	使用したルート	<input type="checkbox"/> ルート1 <input checked="" type="checkbox"/> ルート2 (G1の認証には使えない)					
	気象データ	地点NO.	361	地点名	八王子	省エネ地域区分	6地域
	暖房期最低室温 (OT)	住宅シナリオ・NEB	概ね15℃を下回らない				
		最低OTの計算値	13.2℃				
		住宅シナリオ・EB	約40%削減 ←				
		平成28年基準暖房負荷 ^{※1} (ルート2)	10.52 GJ/年				
	申請住宅システムの暖房負荷 ^{※2}	4.21 GJ/年					
	暖房負荷削減率の計算値	60.0 %					
<small>暖房モードについて:※1では該当地域に応じた暖房モードが設定されている。※2では、ルート1の場合は※1と同じモードだが、ルート2ではどの地域でも全館連続暖房モードが設定されている。</small>							

◆担当者の連絡先等

担当者氏名	○○ ○○
所属/部署名/役職名	○○部 ○○課 ○○
郵便番号 / 住所	000-0000 東京都千代田区神田○-○
電話	00-000-0000
E-mail	oooo@xxx.yy.zz

◆HEAT20ホームページ掲載 公開 非公開 ※当社HPへの掲載についての確認です。
公開希望の場合はリンク先のURLを右に記載してください。 [例 http://www.heat20.jp/]

付属資料

(1) 評価計算で用いた部位の仕様

評価計算に用いた仕様、性能値を一つだけ記載してください。よって、複数の記載、性能値の以上・以下の表記はできません。

「熱貫流率計算書」、「基礎の線熱貫流率計算書」、及びその根拠となる部位断面図(平断面と縦断面)を添付してください。木熱橋の面積比率の妥当性、断面構成材料を確認するためです。

断熱材などの性能値(熱伝導率など)に自己適合宣言書、公的試験成績書の値を用いる場合は、その旨記載するとともに、それら根拠資料を添付してください。

「熱貫流率計算書」、「基礎の線熱貫流率計算書」、及びその根拠となる部位断面図(平断面と縦断面)を添付してください。木熱橋の面積比率の妥当性、断面構成材料を確認するためです。

窓、ドアの性能値(熱貫流率、日射熱取得率)に自己適合宣言書、公的試験成績書の値を用いる場合は、その旨記載するとともに、それら根拠資料を添付してください。根拠資料には、評価計算に用いた品番、性能値の箇所を赤線で囲んで明示してください。

追加仕様についても、評価計算における場合と同じく上記の「熱貫流率等の計算書」、「自己適合宣言書等の根拠資料」を提出してください。

記号は、(1)の評価計算で用いた仕様と区別するためのものです。根拠資料には、この記号で判別しやすくしてください。なお、記号は区別できれば付け方は問いません。

外張断熱の場合は、断熱層内の木熱橋の有無を記載してください。充填断熱の場合は、たる木間、母屋間、根太間、大引き間、剛床など断熱材施工法を記載してください。熱橋面積比率を特定するためです。

熱伝導率を特定するために必要ですので、必ず記載してください。

一つの申請は、すべて屋根断熱か、すべて天井断熱のいずれかになりますので、どちらかを選択してください。

基礎立ち上がり部の断熱部(外側か、内側か)、及び土間部への折返し断熱の有無を記載してください。折返し有りの場合は、折返し長さも記載してください。

断熱材の種類と厚さも、基礎(立ち上がり部)と折返し部がわかるように記載してください。

1) 屋根、天井、外壁、床等の熱貫流率と断熱工法

部位	U:熱貫流率 [W/(m ² ·K)] V:線熱貫流率 [W/(m·K)]	断熱工法	断熱材の種類と厚さ ※断熱材の種類は種別(〇種〇号などの記号)も記載
屋根又は天井 ^{*1} <input checked="" type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/> 天井	X.XX	外張断熱(木熱橋なし)	XPS 3種 b A 〇〇mm
外壁	X.XX	充填断熱+付加断熱(木熱橋あり)	GW H832-36 〇〇mm+付加断熱GW H816-38 〇〇mm
床	外気に接する部分 ^{*2}	充填断熱(根太間+大引間)	EPS1号 2層(〇〇mm+〇〇mm)
	その他の部分	充填断熱(剛床、根太間)	〇〇断熱材(〇〇mm) ※試験成績書添付
基礎壁 (新計算法の場合のみ)			
基礎の線熱貫流率 ^{*3} <input type="checkbox"/> 新計算法 <input checked="" type="checkbox"/> 旧計算法	X.XX	吹付工法(基礎内側+土間折返しなし)	基礎内側:吹付け硬質ウレタンフォームA種 1H 〇〇mm

*1 屋根断熱と天井断熱のいずれかにチェック☑を入れてください。
 *2 モデルプランにはこの部位はありませんが、実設計で想定される「外気に接する床」の仕様の記載してください。
 *3 基礎の線熱貫流率の算出方法は、新計算法、旧計算法のいずれであるかチェックボックスに☑を入れてください。
 ※基礎の線熱貫流率は建築研究所の技術情報「第三章第三節 熱貫流率及び線熱貫流率」の「6.2土間床等の外周部」(新計算方法)又は、同資料の「付録D 土間床等の外周部の熱損失及び基礎壁の熱損失を一体として評価する方法」(旧計算方法)の何れかにより計算してください。
 新計算方法による場合、基礎の線熱貫流率は「0.99」を用いてください。

2) 開口部の熱貫流率・日射熱取得率と仕様

種類	方位	U:熱貫流率 [W/(m ² ·K)]	η:日射熱取得率 [比率]	サッシの仕様	ガラスの仕様	根拠資料
窓	北	X.XX	X.XX	樹脂製	3層ダブルLowEガラス(アルゴンガス入り7mm)	自己適合宣言書 附属書添付
	南	X.XX	X.XX	樹脂製	3層ダブルLowEガラス(アルゴンガス入り7mm)	自己適合宣言書 附属書添付
	東	X.XX	X.XX	樹脂と金属の複合製	2層LowEガラス(ガスなし空気層12mm)	自己適合宣言書 附属書添付
	西	X.XX	X.XX	樹脂と金属の複合製	2層LowEガラス(ガスなし空気層12mm)	自己適合宣言書 附属書添付
ドア		X.XX		種:金属製断熱構造、戸:金属製断熱フラッシュ(ガラスなし)	自己適合宣言書 附属書添付	

※窓が仕様・サイズによりU値が異なる場合は、方位別にU値が最も大きいものを記載してください。ドアもU値が最も大きいものを記載してください。

3) 外皮平均熱貫流率(ルート1の場合のみ記載)

UA:外皮平均熱貫流率 [W/(m ² ·K)]	X.XX
--	------

(2) 部位の追加仕様と熱性能(評価計算で用いた仕様以外に申請する仕様がある場合は、以下に記入する。)

※注 追加仕様は、(1)1)及び2)に記載した部位と同じ部位が対象です。また、U値が評価計算で使用した仕様のU値以下であること。窓のη値はその仕様のη値以上であること。

評価計算に用いた部位と同じ部位であることに注意してください。別の部位を追加したい場合は、別申請となります。

1) 部位(開口部以外)の熱貫流と断熱仕様

部位	記号	U:熱貫流率 [W/(m ² ·K)]	断熱工法	断熱材の種類と厚さ
屋根	R2	X.XX以下	外張断熱(木熱橋なし)	PF1種2号 〇〇mm以上 ※試験成績書添付
外壁	W2	X.XX以下	充填断熱+付加断熱(木熱橋あり)	GW H832-36 〇〇mm+XPS 3種bA 〇〇mm以上
床	F2	X.XX以下	充填断熱(根太間+大引間)	XPS 3種bA 2層(〇〇mm+〇〇mm以上)

2) 開口部の熱貫流率・日射熱取得率と仕様

種類	記号	U:熱貫流率 [W/(m ² ·K)]	η:日射熱取得率 [比率]	サッシの仕様	ガラスの仕様	根拠資料
窓	G2	X.XX以下	X.XX以上	樹脂製	2層複層Low-Eガラス日射遮断型	自己適合宣言書 附属書添付
ドア						

(3) 気密性の確保と防露仕様について（基本的な考え方や注意している点等について記載してください）

防露仕様が、性能表示・評価方法基準（等級4）の防露規定と異なる場合は、防露特認などの公的な根拠資料を添付してください。通気層、防湿フィルムがない、などの場合が想定されます。

屋根又は天井	: 断熱材は・・・であるため、防露措置として・・・及び・・・による対策をしている。
外壁	: 断熱材は・・・であるため、防露措置として・・・及び・・・による対策をしている。
床	: 断熱材は・・・であるため、防露措置として・・・及び・・・による対策をしている。
基礎	: 断熱材は・・・した施工を行うことで・・・対策をはかっている。
取り合い部	: 気流止めを・・・に施工する。気密化のために・・・の措置を施すと共に、・・・を行っている。

各部位、取り合い部ごとに気密化、防露対策及び関連対策について記載してください。

(4) 遮熱計画について（軒や庇の出、設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・窓にはすべて何らかの日射遮蔽措置（ロールブラインドもしくは縦ルーバー）を・・・。

評価計算には、反映していないブラインドやルーバー、その他省エネ基準で認められていない手法でも結構です。

(5) 通風計画について（開口部の設計、通風経路等、設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・通風性を確保するために、各室には二つ以上の開口部を・・・。

評価計算では評価対象外であるブラインドやルーバー、その他省エネ基準で認められていない手法でも結構です。

(6) 暖冷房計画について（設備の設置位置等設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・暖冷房の熱源はエアコンとし、全館空調システムを・・・。

評価計算とは異なる暖冷房運転条件でも結構です。

(7) 換気計画について（換気の種類等設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・全般換気は第1種換気方式とし、換気回数は0.5回/h・・・。
